
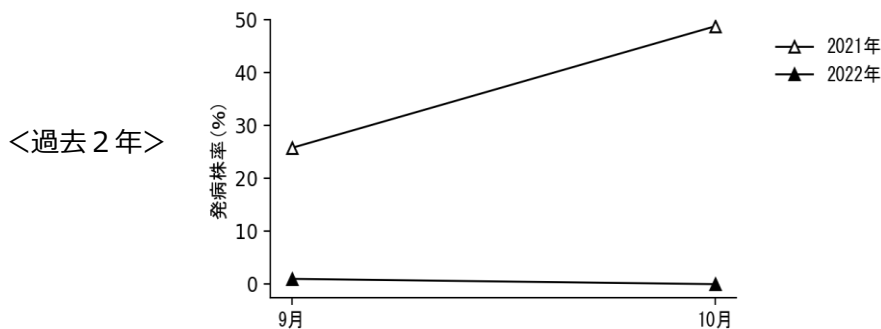
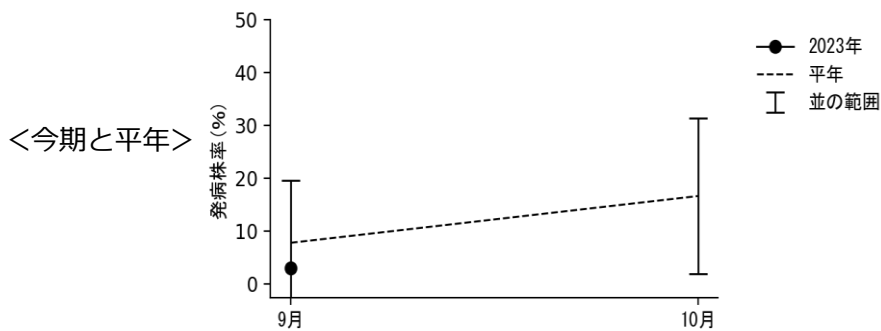


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病株率の推移



- ・ 発病度0.7（平年4.2）
- ・ 発生ほ場率25.0%（平年：26.6%）

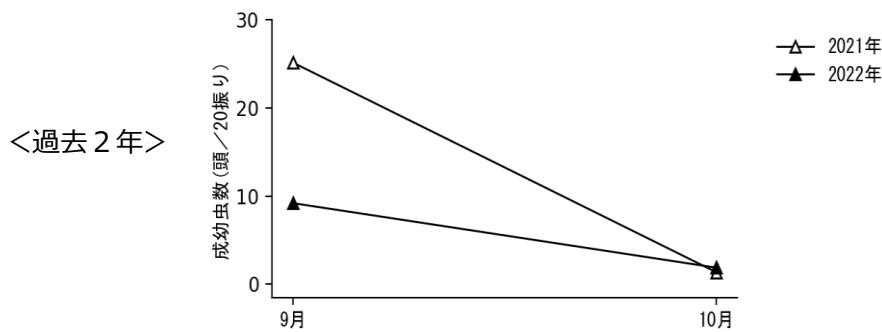
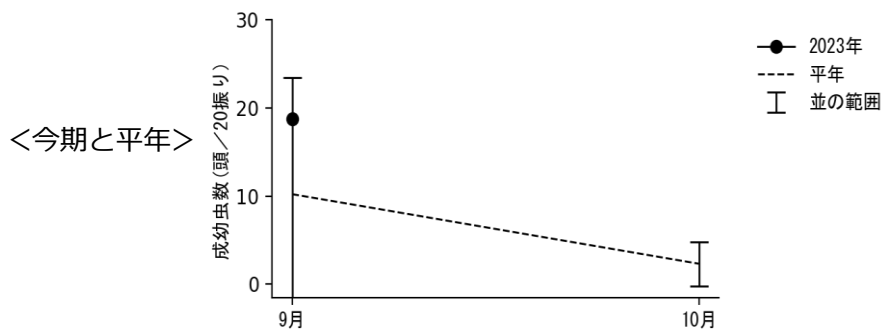
防除のポイント

- ・ 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・ 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	② セジロウンカ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↘	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率87.5%（平年：74.4%）

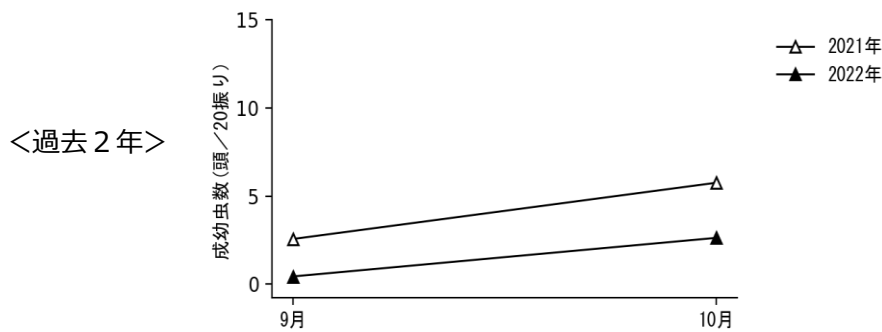
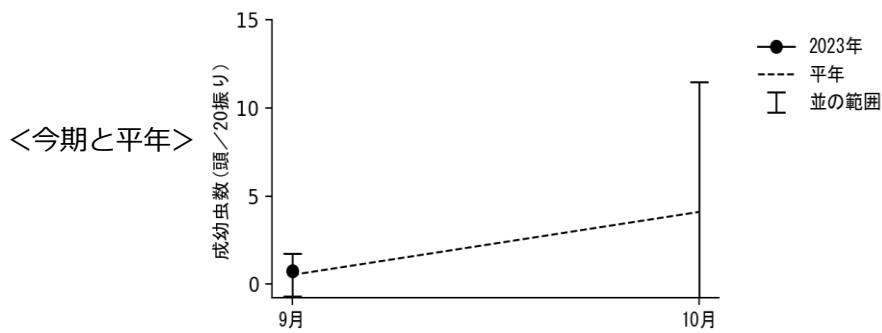
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	③ 斑点米カメムシ類		 <p>ホソハリカメムシ</p>
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

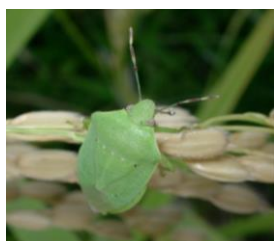
成幼虫数の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：17.3%）

防除のポイント

・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。




ミナミアオカメムシ



アカカメムシ

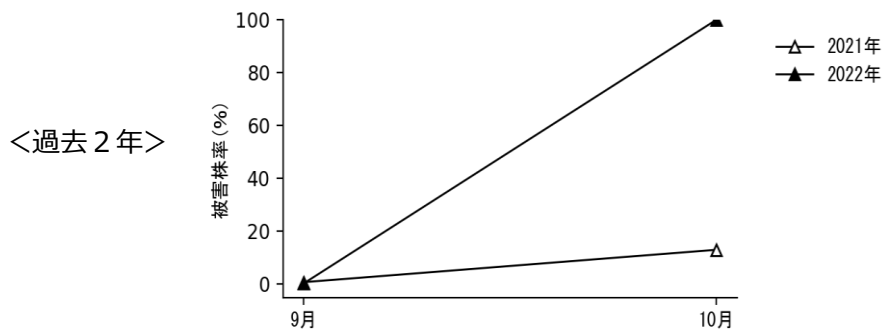
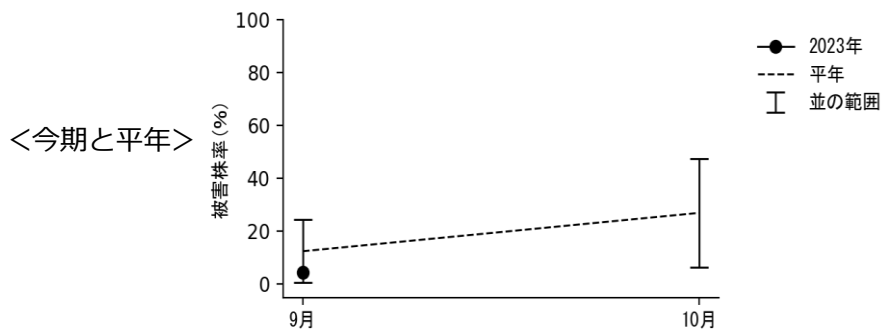


斑点米

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島	
病害虫名	④ コブノメイガ			
調査結果	9月の発生量（平年比）	並		
予報	9月からの増減傾向	↗		
	10月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果


被害株率の推移



・発生ほ場率62.5%（平年：43.7%）

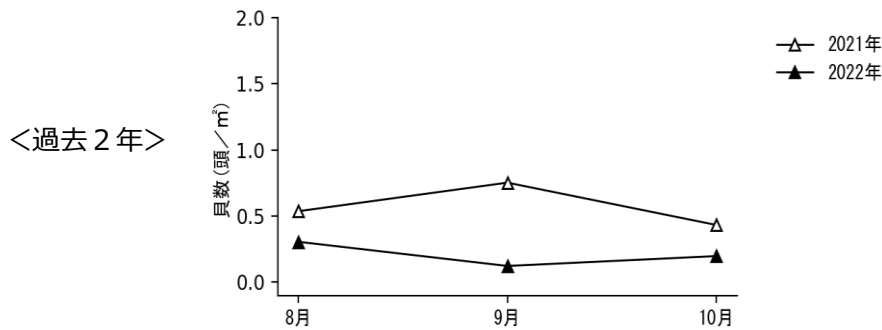
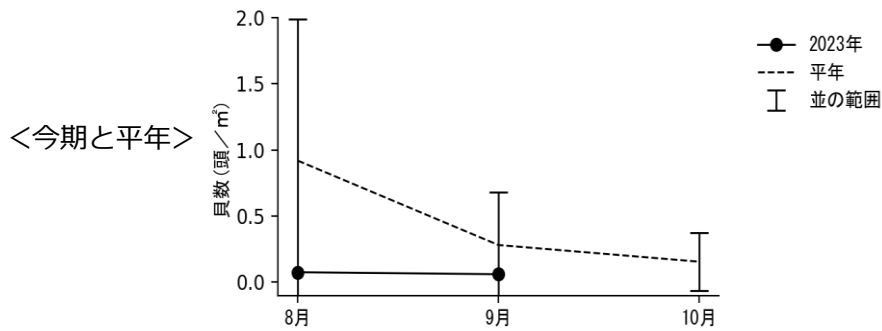
防除のポイント

- ・二期作では幼虫と成虫が混在するため粒剤と液剤を併用して防除する。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↘	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果


貝数の推移



・発生ほ場率37.5%（平年：39.2%）

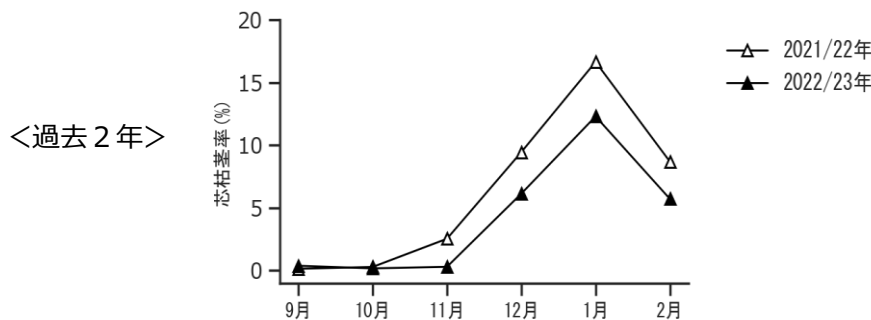
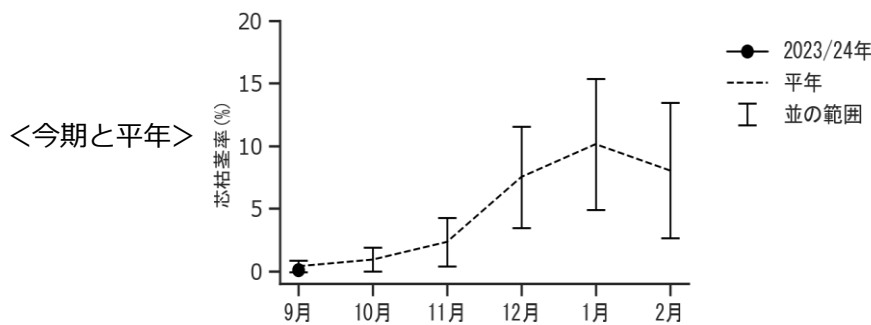
防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


芯枯茎率の推移(夏植え)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ、イネヨトウ
- ・発生ほ場率8.3% (平年：33.8%)

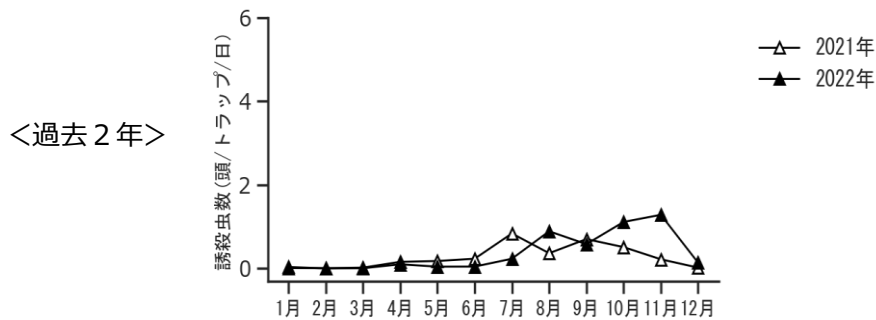
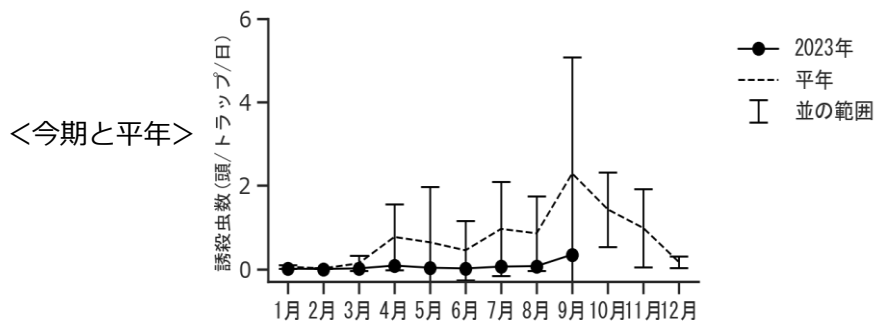
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 96.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

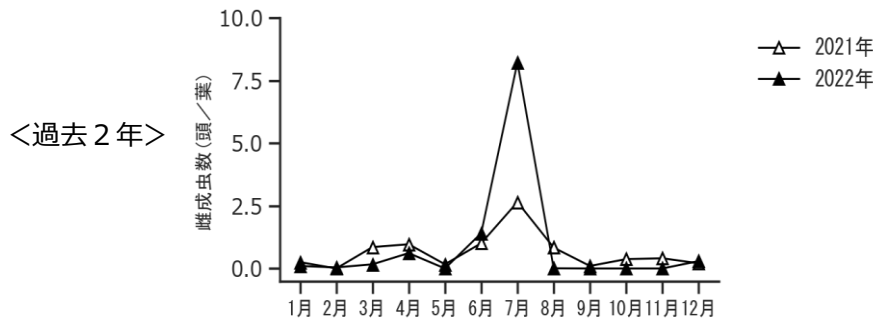
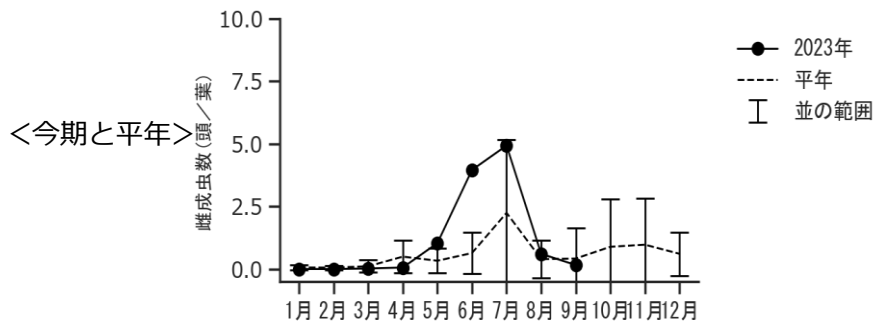
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	



シユレイツメハダニ

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シユレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：30.0%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。




ハダニの寄生による葉のかすれ症状



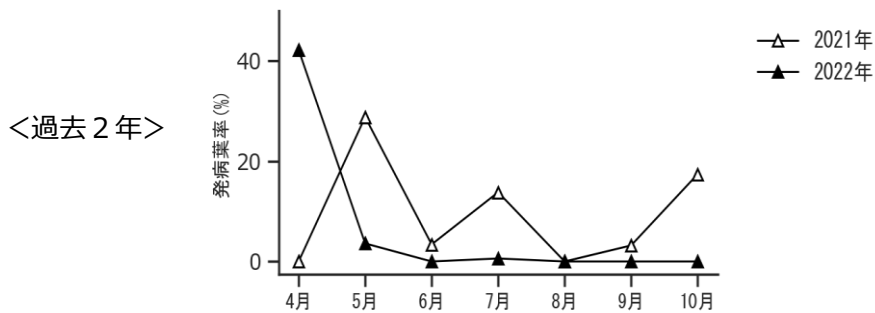
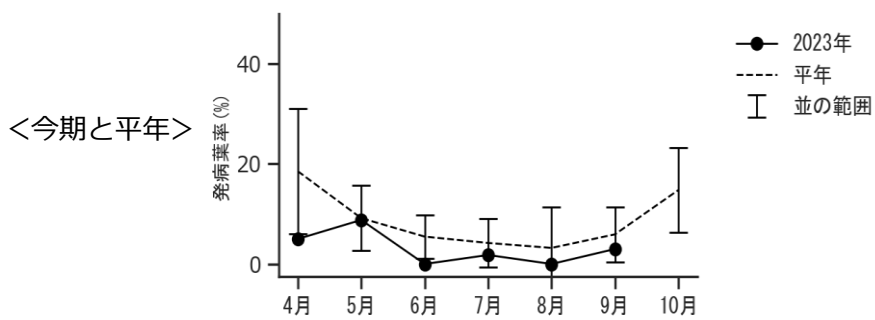
マンゴーツメハダニ



作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 41.1%)

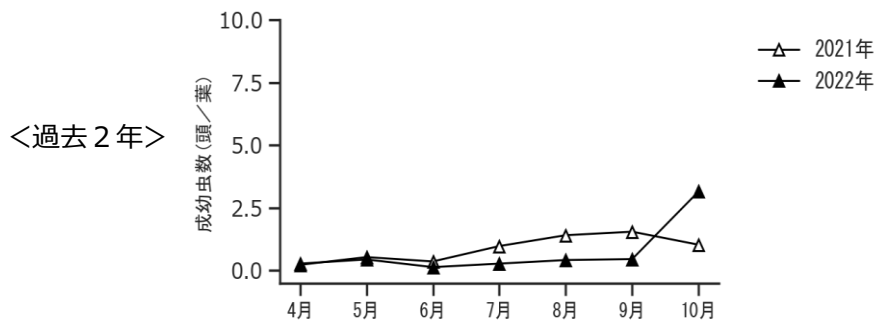
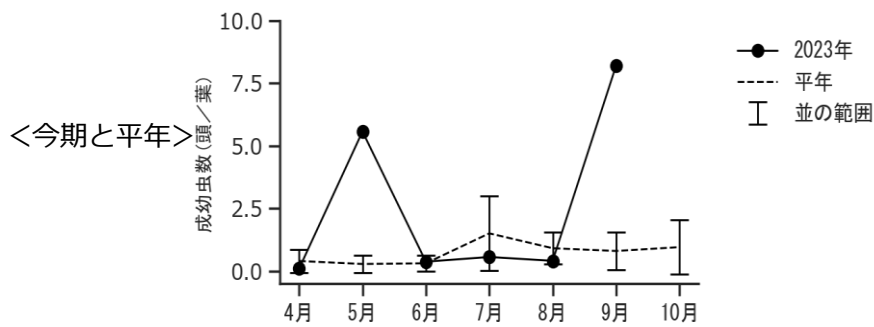
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		 成虫
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 80.4%)、一部ほ場で多発

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

